



CE×Rethink

CE× Rethink 事例集

**RETHINK**

**DESIGN REPORT**

～モノの価値と未来を創る企業のためのサーキュラーエコノミー実践知～

## 本冊子について

本冊子は、主に事業者の皆様へ、サーキュラーエコノミーが実は身近なものであること、またビジネスチャンスにつながる可能性があるということを感じていただければという思いから制作しました。  
紹介するさまざまな事例から、「これなら取り組みそう」、「自分もRethinkerに！」と次のアクションにつながるきっかけになりますと幸いです。

あなたもモノの価値と未来を創るRethinkerになりませんか。

### 〇こんな方におすすめ

- ◆ サーキュラーエコノミーの本質・ポイントを知りたい。
- ◆ Rethink Designの考え方や知見を知りたい。
- ◆ 実践したいけど、何から始めればいいのかわからない。
- ◆ 先進事例やビジネスを知りたい。



## INDEX

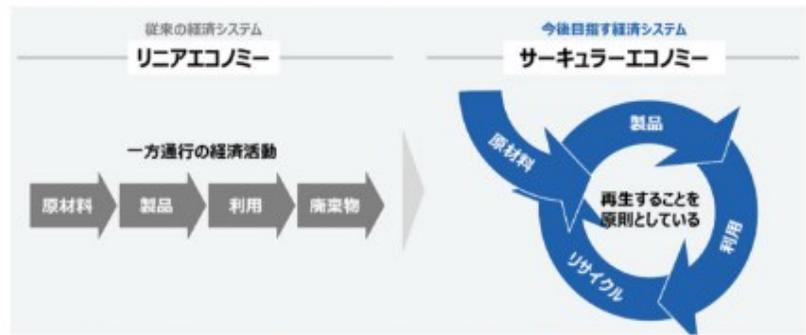
01	なぜサーキュラーエコノミーが注目されているのか	……02
02	サーキュラーエコノミーの実践知「Rethink Design」	……04
03	さまざまなRethink Design Actions	……07
	CASE 1: 廃棄衣料のアップサイクル「commpost(コンポスト)」	……08
	CASE 2: シューズのサーキュラーデザイン「NIMBUS MIRAI」	……10
	CASE 3: 持続可能な寝具生産と消費の形態「RENMEN®」	……12
	CASE 4: 衣類の資源循環の取り組み「oHOHo CYCLE PROJECT」	……14
	CASE 5: asunowa(あすのわ)再生ストレッチ	……16
	CASE 6: 廃棄繊維のアップサイクル「Colour Recycle System」	……18
	CASE 7: サーキュラーエコノミー実現に向けた「ラベルtoラベル」	……20
	CASE 8: 循環型社会の共創の在り方を問う「サーキュラーコミュニティカードゲーム」	……22
	CASE 9: 裁断くずのアップサイクル「UpcycleLino™」	……24
	CASE10: プラスチックとの共存を問う「対馬オーシャンプラスチックシリーズ」	……26
	CASE11: 循環型リサイクルハンガー	……28
	CASE12: KURAMAE モデル	……30
	CASE13: 化粧品・トイレタリー容器の循環型リサイクルシステム	……31
	CASE14: SminkArt(スミンクアート)	……32
	CASE15: Circularity Design Tool Pool	……33
	CASE16: SUTENAI CIRCLE	……34
	CASE17: サーキュラーデザインビルド®	……35
04	「Rethink Design フォーラム～サーキュラーエコノミーとどう向き合うか～」	……36
05	「Rethink Design Meetup～関西からサーキュラーエコノミーに挑む同志～」	……38
	掲載事例に関する情報一覧	……44

# 01 なぜサーキュラーエコノミーが注目されているのか

## 【政府の動き】

近年、資源需要の高まりによる資源制約や環境問題等を背景に、廃棄物を循環資源として、最大限活用しながら付加価値を生み出すことが、新たな成長につながるという認識のもと、従来の経済システムからサーキュラーエコノミーへの移行は極めて重要な取組である。

最近の動きとしては、2024年12月、政府は「循環経済に関する関係閣僚会議」を開催し、サーキュラーエコノミーの移行加速化パッケージを取りまとめ、サーキュラーエコノミーへの移行を今後とも国家戦略として推し進めていく旨を石破総理より表明があった。



(出所)経済産業省 サーキュラーパートナーズ 公式サイトより再編加工

## 循環経済(サーキュラーエコノミー)に関する関係閣僚会議



環境制約や資源制約が高まる中、多くの資源を輸入に依存する我が国にとって、金属やプラスチックなどの廃棄物を循環資源として、最大限活用しながら付加価値を生み出し、新たな成長につなげる、循環経済への移行は極めて重要な取組であります。各大臣は本日取りまとめた政策パッケージを速やかに実行してください。

中略

循環経済への移行は、国民のライフスタイルの転換、製品の設計から廃棄物の再資源化や再生材の利用まで、サプライチェーン全体のあらゆる企業の変革を伴うものであり、本閣僚会議が今後とも司令塔となって、国家戦略として推し進めてまいります。

(出所)内閣官房 循環経済(サーキュラーエコノミー)に関する関係閣僚会議

## 【経済産業省の動き】

経済産業省では、産業を循環性の高いビジネスモデルに転換させるため、2020年5月に「循環経済ビジョン2020」を、2023年3月に「成長志向型の資源自律経済戦略」を策定した。サーキュラーエコノミー関連市場は国内では、2030年に80兆円、2050年120兆円規模の市場創出が見込まれており、その実現に向けての打ち手として、①産官学の連携によるサーキュラーパートナーズの立ち上げ(関係主体の有機的な連携を通じて、日本のサーキュラーエコノミーの実現に必要な施策を検討)、②GX予算を活用した投資支援(資源循環分野において、今後10年間で約2兆円規模の投資)、③法改正も視野に入れたルール整備(「資源循環経済小委員会」にて制度整備)を実施している。



(出所)経済産業省「成長志向型の資源自律経済戦略」より再編加工

2024年度、経済産業省 近畿経済産業局では、関係主体の有機的な連携を通じた、日本のサーキュラーエコノミー実現に必要な施策の検討を念頭に、近畿地域を中心に各地で躍動する事業者等に対し、プロジェクト調査を実施してきた。

具体的な取組に関しては次ページ以降を参照。

## 【参考】経済産業省 サーキュラーパートナーズ

サーキュラーエコノミーの実現には、個々の企業だけでは難しく、ライフサイクル全体の関係者の連携と取り組みの拡張が必要という認識のもと、本パートナーシップが発足。ビジョン・ロードマップの策定、サーキュラーエコノミー情報流通プラットフォームの検討、地域循環モデルの構築など、サーキュラーエコノミーの実現に必要な施策を検討している。



## 02 サーキュラーエコノミーの実践知「Rethink Design」

### 【Rethink Design】

Rethink Designとは、サーキュラーエコノミー(CE)をビジネス実装するうえで鍵となる考え方であり、先進事例をもとに要点整理したものである。

ポイントは、モノ自身やモノとの関わり方に対する価値の捉えなおし(Rethink)、価値転換したモノをいかに廃棄を前提としないライフサイクル全体での資源循環とビジネスモデルをデザインしていくかという点にある。その勘所を通じて、より多くの事業者の方々がCEを自分事として捉え、新たなアクションにつなげるべく、「Rethink Designプロジェクト」を展開している。



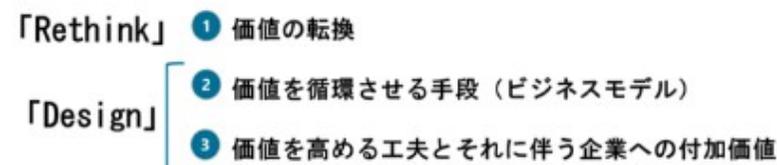
### 【プロジェクト活動実績】

2024年度は、主に関西各地の各分野で躍動するRethink Designを通じたCEの①実践事例の「可視化」「要素化」、②実践者同志の更なるアクションの「活性化」③知見の「体系化・普及」を意識した取組を実施。



### 【事例からみるRethink Designの実践知】

本ページでは、CEをビジネス実装するうえで鍵となる考え方「Rethink Design」に基づき、本冊子で紹介する17の先進プロジェクトおよびコンセプト事例から窺えた実践知を下記3つのポイントから整理する。



### ①価値の転換「価値の見つけ方」

ヒアリング調査等を通じて明らかとなった、先進プロジェクトにおける、モノ自身やモノとの関わり方において捉えなおした(Rethink) 価値は、下記のとおり整理できる。

#### Rethinkしたモノ・コト

##### 【衣料・繊維】

- ・ 製造してから販売されるまでの間に汚損や不良等により、廃棄せざるを得ない衣料問題
- ・ 洋服を作る過程において、1枚の生地全体から約3割発生する「裁断くず」
- ・ 色分別による新しい衣料のリサイクルシステム
- ・ 世界で年間約239億足生産され、95%が再利用されず廃棄される靴を再利用しやすい製品設計に
- ・ 寝具生産の生産段階で発生する綿のハギレ

##### 【プラスチック】

- ・ 年間約2000～3000個以上漂着する海洋プラスチックごみ(ポリエチレン製のポリタンク)
- ・ 使用済みストレッチフィルム、パッケージラベルや化粧品・トイレタリー容器
- ・ インナーウェアに使用しているハンガーを自社のサプライチェーン内で循環させる仕組みづくり

##### 【化粧品】

- ・ 廃棄コスメの問題を、化粧品という枠組みから脱却し有用性のある原料として捉える

##### 【食】

- ・ 地域のカフェ・焙煎店で生じるコーヒー資源や食材と地域の福祉事業所における社会との関わり方

##### 【資源循環全般】

- ・ 「ごみ」のデータ化により、資源価値の終わりを始まりに
- ・ どこか遠い課題意識が持たれやすいごみの問題を楽しく身近に学び、理解促進へ
- ・ 捨てないことが当たり前の社会

## ②価値を循環させる手段(ビジネスモデル)「価値のつくり方」

アクセンチュアは、CEIにおいて、モノをどのようにして循環させていくかという観点で、5つのビジネスモデルに分類している。同ビジネスモデルを拡大再編する形で、モノ以外の情報等も含めた価値をどのようにして循環させるかという観点から、本事業でヒアリングを実施した先進プロジェクトのビジネスモデルを下図のように整理した。

価値を循環させる手段、すなわちサーキュラーエコノミー型のビジネスにおいては、供給(つくる)側ならびに利用(つかう)側の視点からモノの循環を促すビジネスの仕組み(下記①～④)に加え、関係主体と連携しながら、サーキュラーエコノミー型ビジネスへの移行をファシリテートするようなアプローチそのものもビジネスモデル(下記⑤)となる。なお、アクセンチュアも提言しているように、これらビジネスモデルは相互に連携することで価値の最大化につながる。

### Rethink起点のビジネスモデル

#### 「つくる」を担うビジネス

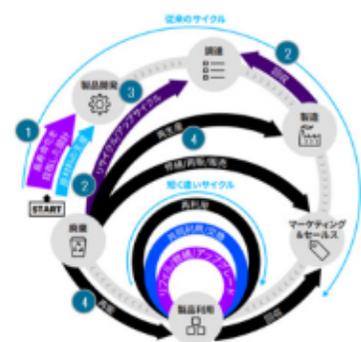
- 1 サークュラー型のサプライチェーン  
(製造・設計段階から再生することを前提とした素材)
- 2 回収と水平リサイクル
- 3 アップサイクル

#### 「つかう」を担うビジネス

- 4 製品寿命の延長(リペア・リセール・リファービッシュ)  
シェアリング・プラットフォーム、製品のサービス化

#### 「つなぐ」を担うビジネス(=オーケストラ型)

- 5 サークュラーエコノミー型ビジネスへの移行・拡大支援  
(新たな企業連携体・コミュニティの形成・運営)



(出所)アクセンチュア  
「無駄」を「富」に変える5つの成長モデルより再編加工

## ③価値を高める工夫とそれに伴う企業への付加価値

ヒアリング調査を実施した先進プロジェクトでは、生活者(消費者)に資源循環の重要性について楽しみながら身近に感じてもらう機会の創出・仕掛けづくりなど、価値の受け手の感性に訴求するような伝え方の工夫が見られ、コトづくりの重要性も明らかとなった。

### 価値を高める工夫

- 色・デザインの方で消費者にとって魅力的な商品づくりに取り組み、学生とともにワークショップイベントを実施。
- 地元の小中高等学校に赴き、プラスチックへの向き合い方を伝える出前講座を実施。
- 顧客体験の余白を残した半製品の提供、企画・ワークショップイベント等により、廃棄コスメ問題に楽しく触れる。
- カードゲームを通じて、異業種の方とコミュニケーションを図りながら、サーキュラーエコノミーや新しい社会のあり方を楽しみながら考える。

## 03 さまざまなRethink Design Actions

次ページ以降では、17の先進プロジェクトおよびコンセプト事例を紹介する。プロジェクト・事例の紹介とともに、モノ自身やモノとの関わり方を捉えなおした価値、価値をデザインするまでの歩みも明らかにしている。また、組織の枠を超えて、共創するプロジェクト関係者についても紹介する。

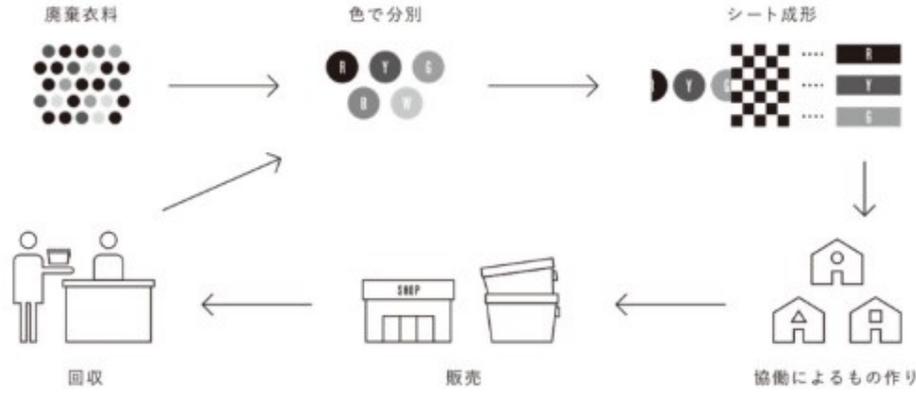
また、本冊子で紹介する先進プロジェクトについて、前ページで整理したビジネスモデルで分類を試みたものが下表となる。ただし、プロジェクト実施企業の意図・想いとは異なる可能性がある点、またプロジェクトのフェーズによってもビジネスモデルが変化していく可能性がある点にご留意いただきたい。

### 先進プロジェクトにおけるビジネスモデル

プロジェクト名	ビジネスモデル				
	1	2	3	4	5
CASE 1:廃棄衣料のアップサイクル「compost(コンポスト)」			○		
CASE 2:シューズのサーキュラーデザイン「NIMBUS MIRAI」	○				
CASE 3:持続可能な寝具生産と消費の形態「RENMEN®」	○		○	○	
CASE 4:衣類の資源循環の取り組み「oHOHo CYCLE PROJECT」		○		○	
CASE 5:asunowa(あすのわ)再生ストレッチ		○			
CASE 6:廃棄繊維のアップサイクル「Colour Recycle System」			○		
CASE 7:サーキュラーエコノミー実現に向けた「ラベルtoラベル」		○			
CASE 8:循環型社会の共創の在り方を問う 「サーキュラーコミュニティカードゲーム」					○
CASE 9:裁断くずのアップサイクル「UpcycleLino™」	○		○		
CASE 10:プラスチックとの共存を問う 「対馬オーシャンプラスチックシリーズ」			○		
CASE 11:循環型リサイクルハンガー	○	○			
CASE 12:KURAMAE モデル			○		○
CASE 13:化粧品・トイレタリー容器の循環型リサイクルシステム		○			
CASE 14:SminkArt(スミンクアート)			○		
CASE 15:Circularity Design Tool Pool					○

(出所)ヒアリング調査等をもとに筆者作成

# 廃棄衣料のアップサイクル「commpost(コンポスト)」



## Rethink Designのポイント

様々な企業・団体と協働して廃棄衣料問題に取り組むサステナブルマテリアル・プロダクトブランド

- <Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>
- 製造してから販売されるまでの間に汚損や不良等により、廃棄せざるを得ない洋服(廃棄衣料)に着目。
- <Design: 価値をデザインするまでの歩み>
- 衣料品は異なる素材が混在しており、素材分別が容易ではないところ、廃棄繊維を色で分けてアップサイクルする開発・研究を行っている「Colour Recycle Network」との協働実現により、廃棄衣料をアップサイクルした新製品開発を実現。
  - 廃棄衣類の色分別は、アーバンリサーチ内のサステナビリティ推進担当者や商品企画担当者、グループ会社の担当者と定期的に実施。色分別された衣料を、協働パートナーである「Colour Recycle Network」にて、シート状に加工。その後、特例子会社のURテラスや連携企業・団体等とともに様々なアップサイクル製品を生み出している。

## プロジェクト概要

地球環境や人の働き方・暮らし方に新しい常識を示す

株式会社アーバンリサーチでは、製造してから販売されるまでの間に汚損や不良等により、廃棄せざるを得ない洋服(廃棄衣料)が出るところ、「廃棄衣料をアップサイクルして新しいものを生み出す」ことで廃棄衣料の削減に取り組みたいと考えていた。また、障がい者雇用の課題も抱えていたことから、廃棄衣料と障がい者雇用の同時に解決できる「commpost」の取り組みが生まれた。

commpostはこれからの地球環境や人の働き方・暮らし方に対して、新しい常識を示す、様々な企業・団体と協働して取り組むサステナブルマテリアル・プロダクトブランドである。



< commpost 製品シリーズ >



< commpost のコンセプト >

## プロジェクト関係者

(株)アーバンリサーチ	衣類分別・企画・販売
Colour Recycle Network	再資源化協力
NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝	製造協力
(株)URテラス	衣類分別・企画・製造協力



## シューズのサーキュラーデザイン「NIMBUS MIRAI」



## プロジェクト概要

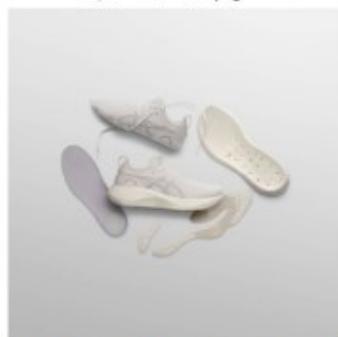
リサイクルを困難にする要因に徹底的に向き合ったシューズ

株式会社アシックスは創業時より、創業哲学である「健全な身体に健全な精神があれかし」の実現を目指している。そのためには、快適に走れる健やかな地球環境が不可欠と考える同社は、高いパフォーマンス性能を備えながらも、シューズがリサイクルしにくい要因に徹底的に向き合った「NIMBUS MIRAI」を開発。

シューズがリサイクルできない主な理由は、「分別できないアッパーとソール」、「複数の異素材で構成」、「リサイクルの仕組みの未整備」の3つ。こうした課題に対して、分離可能な接着剤の活用や、ポリエステル単一素材での構成を目指し、取り組んできた。また、連携パートナーと協力し、使用済みシューズを回収する仕組みも整備。



<開発ストーリーや回収プロセスにリンクするQRコードの印字>



<リサイクルしにくい原因の一つだったシューズの分解が容易>

## Rethink Designのポイント

しっかりしたもののづくりに取り組み、高いパフォーマンス性能とサステナビリティの両立を実現

<Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>

- 世界では年間約239億足の靴が生産され、そのうち95%に相当する2,000万トンの靴が廃棄されている。ごみゼロに取り組む自治体訪問時に、リサイクルが難しいものの一つにシューズが挙げられていた。こうした現状に危機感を抱き、シューズのリサイクルを困難にしている課題に着目した。

<Design: 価値をデザインするまでの歩み>

- アシックスで大切にしている価値は「しっかりしたもののづくり」に取り組むこと。中でも、「NIMBUS」シリーズは最も機能性の高いランニングシューズの一つであり、開発・製造に至るまでに社内の厳しい評価指標がある。最後まで細かい指摘があったが、それらをクリアし、サステナビリティへアプローチした「NIMBUS MIRAI」の商品化が実現した。

## プロジェクト関係者

(株)アシックス

企画・開発・製造・販売

テラサイクルジャパン合同会社

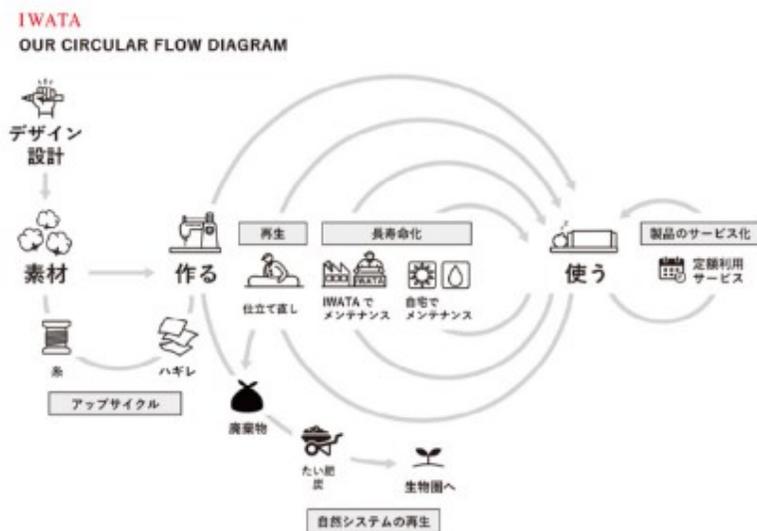
回収・リサイクル

検討中

再利用化



## 持続可能な寝具生産と消費の形態「RENMEN®」



### プロジェクト概要

#### 持続可能な寝具生産・消費を目指すプロジェクト

衣料や寝具などの繊維産業は原材料の調達、生地や製品の製造、輸送から廃棄に至るまで、環境に多大な影響を与えていることについて、寝具メーカーである株式会社イワタでは問題意識を持っていた。

株式会社イワタでは、サステナビリティ実現に積極的に取り組む中で、寝具生産と消費の形態の確保に繋がりたいと考え「RENMEN®」(連綿)プロジェクトを始動させた。

「RENMEN®」では、資源の効果的利用、地産地消、リサイクル、アップサイクル、再生可能エネルギーの活用、生産プロセスの見直し、廃棄物の削減と循環などを目指して、様々なプロジェクトを実施し、環境負荷の低減に取り組んでいる。



<天然毛から生じる断片や塵を集めて肥料に再利用>



<羽毛を再利用し、循環につなげる試み>

### Rethink Designのポイント

生産段階で発生する綿のハギレに着目し、複数企業と連携して実現したRENMEN Cotton

<Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>

- 「RENMEN®」のプロジェクトの内、RENMEN Cottonでは、生産段階で発生する綿のハギレに着目。

<Design: 価値をデザインするまでの歩み>

- 寝具は生地を縫製し、中わたを充填して製造するが、生地の検反工程で織りキズ、汚れ等が発見された部分は裁断時に取り除く。また、用尺の足りない生地や生地の端等はハギレとなる。
- こうした裁断くずを捨てることなく集め、再度紡績して糸に活用。
- 再度糸に戻す工程では、パージンのコットンを足して糸にしている。その糸を今治地域の協力企業に届け、今治基準のタオルにして、製造・販売。
- 自社工場でハギレが出てからタオルになるまで、反毛業者、紡績業者、製織業者、縫製業者と複数の企業に関わり、実現に至っている。

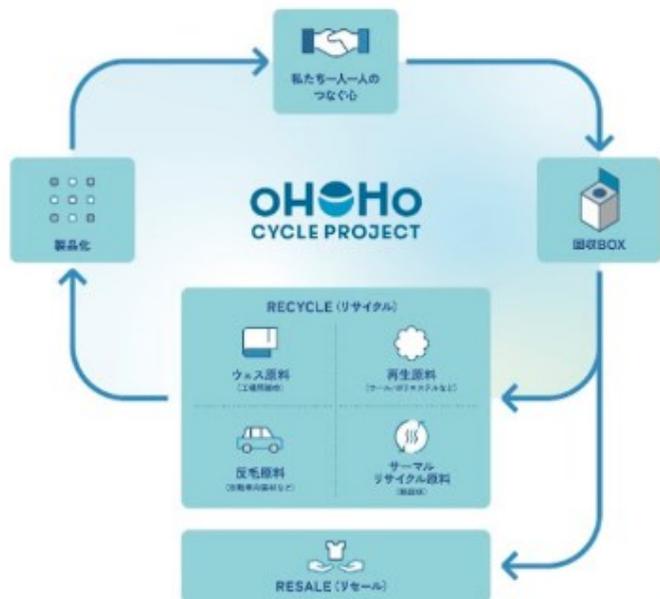
### プロジェクト関係者

(株)イワタ	企画・販売
浅野燃糸(株)	再資源化協力(燃糸・タオル製造)
(株)BPLab	回収

※RENMEN Cottonの関係者を記載



# 衣類の資源循環の取り組み「oHOHo CYCLE PROJECT」



## プロジェクト概要

### 再資源化を見越した衣類回収のモデル事業

再資源化を見越した衣類回収のモデル事業「oHOHo CYCLE PROJECT(オホホ サイクルプロジェクト)」は、大阪府及び協業企業10社に加え、協業自治体2市地域で連携して取り組んでいる。

実証期間は2024年10月9日～12月1日として、65拠点(単日イベント含む)で4932kgの使用済み衣類を回収した。

モデル実証事業の結果を踏まえ、2025年4月には業界の垣根を越えた大阪発「サステナブルファッション・プラットフォーム」の構築を目指して準備を進めている。



<回収用ボックス>

## Rethink Designのポイント

地に足をつけた循環の仕組みづくりを目指して、連携パートナーの輪の拡大を目指す

- <Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>
- 実装を念頭においたモノの循環をテーマに、数年にわたって複数企業で勉強会や実証実験に取り組んできたところ、サーキュラーエコノミー実現においては、1社だけで取り組んでもできることには限りがあり、プラットフォームとして展開しないといけないという気付きがあった。地に足をつけた循環の仕組みづくり、企業・官民を超えて連携する大阪モデルのプラットフォーム構築を目指し、2024年は衣料品の回収拠点の拡大をテーマに事業を進めた。
- <Design: 価値をデザインするまでの歩み>
- 府内の百貨店、商業施設、アパレル店等の店頭以外に、アクセスしやすい回収拠点がなかったかを検証する。
  - 社会課題・環境課題解決のスキームにつなげられるよう、引き続き連携パートナーの輪を広げていく。
  - 地域住民が自らの課題として積極的に行動できる仕組みづくりを目指す。

## プロジェクト関係者

青山商事(株)	衣類の回収
(株)エイチ・ツー・オー商業開発	衣類の回収
JR西日本SC開発(株)	衣類の回収
(株)阪急阪神百貨店	衣類の回収
阪急阪神不動産(株)	衣類の回収
ファイバーシーディーエム(株)	回収・選別
帝人フロンティア(株)	衣類の再資源化
Earth hacks(株)	CO2排出削減量の算定
大阪府	広報・普及啓発/衣類の回収
吹田市	広報・普及啓発/衣類の回収
藤井寺市	広報・普及啓発
エイチ・ツー・オー リテイリング(株)	プロジェクトマネジメント
(株) MILKBOTTLE SHAKERS	プロジェクトマネジメントサポート



# asunowa(あすのわ)再生ストレッチ



## Rethink Designのポイント

取り組みやすい行動からスタート、使用済みストレッチフィルムの有効活用・循環へ

- <Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>
- asunowa再生ストレッチでは、株式会社キューソー流通システムと連携して取り組んでいる。株式会社キューソー流通システムでは、環境への取組を課題としていたところ、まずは取り組みやすいところとして、単一材料で回収できるという点から、物流拠点で使用したストレッチフィルムの資源の有効活用に着目。
- <Design: 価値をデザインするまでの歩み>
- オルディ株式会社と株式会社キューソー流通システムは2020年より協業し、使用済みストレッチフィルムのサーキュラーエコノミー構築を目指して2022年8月に東京・神奈川・埼玉地区、2023年5月に茨城地区、2024年6月に関西地区と回収地域の拡大を進めてきた。
  - 回収した資源を再資源化(ペレット化)し、その原料を用いたフィルムをasunowa再生ストレッチとして使用する循環を進めている。

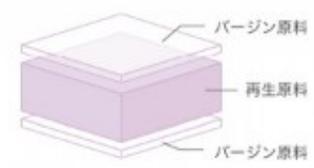
## プロジェクト概要

再資源化した原料を活用したストレッチフィルム

日用雑貨から包装資材まで幅広く「暮らしにかかわるものづくり」を行うオルディ株式会社。独自商品の開発力を活かし、同社は海洋プラスチックゴミなど深刻な環境問題に配慮し、持続可能な世界を実現させるべく、asunowaプロジェクトを発足。

オルディ株式会社では、asunowaプロジェクトの一環として、asunowa再生ストレッチを開発。asunowa再生ストレッチは、オルディ株式会社が販売した顧客の倉庫・物流等で使用されたストレッチフィルムを回収し、再資源化した原料をストレッチフィルムの中間層に活用することで使用感など性能を落とさずサーキュラーエコノミーを構築した商品である。

●再生原料入りの3層構造



<asunowa再生ストレッチの構造>



<環境問題に配慮し、持続可能な世界の実現を目指すasunowaプロジェクト>

## プロジェクト関係者

オルディ(株)	企画・販売
(株)キューソー流通システム	資源の使用・分別
国内協力企業	回収・再原料化
国内協力企業	再商品化



# 廃棄繊維のアップサイクル「Colour Recycle System」



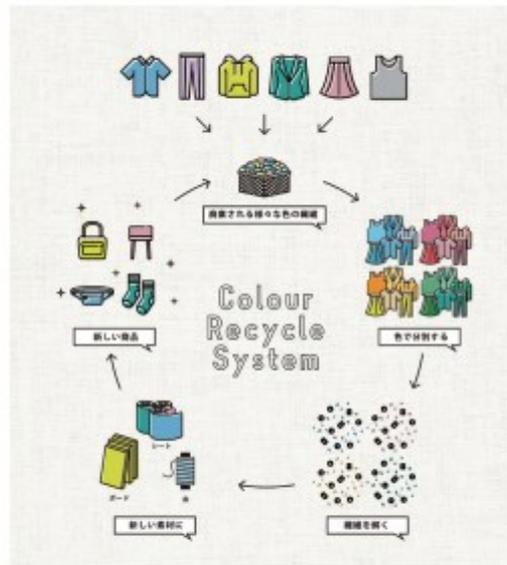
## プロジェクト概要

廃棄繊維を色で分ける魅力的なアップサイクル

株式会社colourloopでは、素材で分別することが難しい繊維素材を、色で分けてリサイクルすることにより、さらに魅力的な素材にする研究をはじめ「Colour Recycle System」を生み出した。

色で分けてアップサイクルすることで、破れたり褪せたりした廃棄繊維も有効利用できる。染料を使用せず繊維そのものを素材として再利用するため、より環境への負荷を低減。

解かれた繊維は、糸や紙、繊維強化プラスチックと多岐にわたる製品に生まれ変わる。また、さまざまな色の素材を使用することで、他にはない深い色合いや独特の素材感を実現している。



< Colour Recycle System の流れ >

## Rethink Designのポイント

「色」を取り入れたデザイン性のある新しいリサイクルシステムの構築

<Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>

- 繊維のリサイクル率は他の素材に比べて極端に低い。2種類以上の素材を使用している衣類が多い、古着はネームタグの紛失、退色もあり、分別が難しい等の要因がある。そうした中、消費者にとってワクワクするような魅力ある商品を目指したいと考え、「色」に着目した。

<Design: 価値をデザインするまでの歩み>

- 株式会社colourloop代表の内丸氏は、従来の工学中心のリサイクルシステムに、色を取り入れたデザイン性のある新しいリサイクルシステムの構築に着眼し、博士課程で繊維リサイクル研究をスタート。研究を社会実装する形でプロジェクトに取り組んでいる。
- 協力企業等の連携のもと、Colour Recycle Systemのコンセプトに基づく、WFRP(繊維強化プラスチック)素材や製品を開発。WFRPでは、繊維を色材としてまた強化材として使用しているため、深い色合いと独特の素材感、さらには強度や弾性率等の優れた機械的特性がある。
- 素材は、押出成形、射出成型、シート、糸・布、紙、圧縮フェルト、ボードとして提供。様々な用途展開を狙って試作を繰り返してきた。

## プロジェクト関係者

(株) colourloop	企画・開発・製造・販売
Colour Recycle Network	素材開発、運営支援
(株)東谷商店	廃棄繊維の資源化
(株)ロングリーチ	製造
ナカノ(株)	廃棄繊維の資源化
(株)アボード	インテリア・家具デザイン



## サーキュラーエコノミー実現に向けた「ラベルtoラベル」

ラベル to ラベル グンゼ、ピエトロ、フジシールとの協業によるプロジェクト

## プロジェクト概要

## 使用済みラベルから再生ラベルへ

グンゼ株式会社、株式会社ピエトロ、株式会社フジシールは協働して、ピエトロドレッシング製品の2品に資源循環型(ラベルtoラベル)シュリンクフィルムであるGEOPLAS®を提供。インキ脱離可能なラベルから再生ラベルを生み出し、水平リサイクルすることで、サステナブルな社会の実現に取り組んでいる。

福岡県内のピエトロレストラン2店舗での回収とピエトロ工場にて排出されたピエトロドレッシングのパッケージラベルを、フジシールが印刷インキを剥離・再原料化。それらをもとに、グンゼが新しいフィルムを製造し、新しいラベルに再生している。



&lt;シュリンクフィルムGEOPLAS®&gt;



&lt;ピエトロレストラン2店舗に設置された回収ボックス&gt;

## Rethink Designのポイント

ラベルの再生により、資源循環への寄与を目指す

&lt;Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし&gt;

- 株式会社ピエトロでは、2022年よりボトルに使用するプラスチックの一部をバイオマスプラスチックに変更し、パッケージ印刷に使用するインキの一部をバイオマスインキに変更した。次の環境配慮の取組みとして、ラベルのリサイクルに着目。

&lt;Design: 価値をデザインするまでの歩み&gt;

- ピエトロドレッシングのラベルを福岡県内のレストラン2店舗で回収し、使用済みのパッケージラベルから印刷されたインキを取り除き(脱墨処理)、新しいラベルに再生する。
- ラベルが再びラベルに生まれ変わることによって、資源循環に寄与している。
- ラベルtoラベルの取組の過程では、フィルムの性質はそのままに、薄膜化にも取り組んだ。

## プロジェクト関係者

グンゼ(株)	フィルム製造
(株)ピエトロ	ピエトロ製品製造・販売
ピエトロ店舗	ラベル回収
(株)フジシール	脱インキ・再生原料化



## 循環型社会の共創の在り方を問う「サーキュラーコミュニティカードゲーム」



## プロジェクト概要

楽しみながらサーキュラーエコノミーを学ぶツール

ごみ問題を正しく学び、考え、行動することで少しでも良い社会をつくれるのではないかとこの想いから2023年に設立された株式会社ごみの学校。

ごみの学校では、楽しみながらリサイクルやサーキュラーエコノミーのことを学び、新しい社会・経済のあり方を考えるツール、サーキュラーコミュニティカードゲームをオリジナルで開発。コミュニティの中で発生する資源循環やごみの廃棄に関する様々な解決したい課題を、自身が属したチームの技術や強みを考えてアクションすることで、資源循環と廃棄物の削減を目指すカードゲームである。



<カードゲームを活用したワークショップの様子>

## Rethink Designのポイント

どこか遠い課題意識が持たれやすいごみの問題を楽しく身近に学び、理解促進へ

<Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>

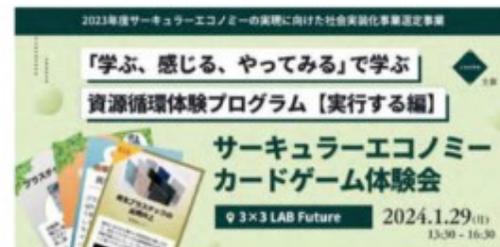
- ごみの問題は身近なものであるのにどこか遠い課題意識が持たれやすい。現状の廃棄物処理の仕組みについて、より良い方向としていくためには、考え方や価値観、慣習を、市民や自治体、企業の方に向けて理解促進していかないと根本的な問題は変わらないという考えがあった。そこで、楽しく学べるカードゲームを通して自分ごととして捉えてもらうことで、持続可能な資源循環や経済の両立を考えるきっかけにつなげることを目指した。

<Design: 価値をデザインするまでの歩み>

- ごみの学校では、現在約2800名が所属する、Facebookコミュニティ「ごみの学校」を運営。コミュニティには、学生・メーカー・廃棄物処理会社・行政など業界や年代問わず様々なバックグラウンドの方が所属。所属するコミュニティメンバーからの情報や意見交換の中で、それぞれの関係者が持つ課題について理解を深めながらゲームの内容を検討してきた。
- カードゲームはワークショップや研修の中で活用。異業種の人とコミュニケーションをとりながら、関係性構築の疑似体験ができる点がカードゲームの魅力でもある。

## プロジェクト関係者

(株)ごみの学校	カードゲーム事業企画・運営
東京都環境公社	カードゲーム事業を通じたプログラム開催 (東京都環境公社補助事業「学ぶ、感じる、やってみる」ことで進む資源循環体験プログラム)(令和4年))
川崎市	カードゲーム事業を通じたプログラム開催 (「サーキュラーエコノミーをテーマとした、かわさきグリーンイノベーションクラスター交流会」(令和7年2月))



## 裁断くずのアップサイクル「UpcycleLino™」



## プロジェクト概要

## 裁断くずを活用し生み出す新たなファブリック

株式会社ネキストはnest Robe / CONFECTなどのアパレルブランドを手掛ける会社で、素材の生産からデザイン、縫製まで全ての工程を国内で行っている。

UpcycleLino™(アップサイクルリノ)は、アパレル業界の中でも深刻な問題となっている衣料ロスに目を向けたプロジェクト。洋服を作る過程において、1枚の生地全体の約3割に及んで発生し、廃棄される「裁断くず」を活用した。

プロジェクトでは、無染色の裁断くずから再生された糸を使い、国内メーカーと共同でさまざまな生地開発を行っている。ただし、一部の裁断くずは糸に再生できないため、それらを使ったプロダクトとして「土に還るハンガー」を開発した。



<生地をカットした際の余り生地「裁断くず」>



<土に還るハンガー>

## Rethink Designのポイント

洋服を作る過程で生じる「裁断くず」に着目。徹底して分別し、廃棄ゼロを実現。

<Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>

- 洋服を作る過程において、1枚の生地全体の約3割に及んで「裁断くず」が発生。その「裁断くず」をわざわざ処分費を払って廃棄するのではなく、有効活用すべく着目。

<Design: 価値をデザインするまでの歩み>

- 裁断くずから糸を再生するにあたり、ネキストでは色別、混率別に細かく分別している。ネキストでは自社工場で製造しているため、こうした細やかな分別にも対応してきた。元の生地の高クオリティが高いので、再生した時の糸も高いクオリティを維持できる点も強み。
- 糸を再生にするにあたり、計算上はうまくいくはずがうまくいかなかったり、失敗しながら、何度も試行錯誤を重ねてきた。
- 裁断くずを糸に戻せないものは、フェンツ(フェルト状のシート)にして、ハンガーやノベルティ一の素材として活用することで、廃棄ゼロを実現している。

## プロジェクト関係者

(株)ネキスト	商品企画・製造・分別・販売
(株)ナイガイテキスタイル	紡績
(株)ヤギ	製織



# プラスチックとの共存を問う「対馬オーシャンプラスチックシリーズ」



## プロジェクト概要

### 対馬オーシャンプラスチックの活用

130年以上もの間、現場で働くプロの職人向けの工具箱や、ハードなアウトドアに特化した収納ボックスを作り続けてきた株式会社リングスター。

同社は、長崎県対馬市へ漂着した海洋プラスチックごみを配合した「対馬オーシャンプラスチックシリーズ」を製造、販売している。対馬オーシャンプラスチックシリーズとして、これまでルアーケース、収納ボックス、工具箱を展開。また、これら「対馬オーシャンプラスチックシリーズ」の販売数に応じて、対馬市へ寄付を行い、さらなる環境奇与につなげている。

現在はプロジェクトが発展して、同社本社が所在する生駒市、対馬市とともにローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業にて、両市の小中学校に赴き、プラスチックへの向き合い方を伝える講座を行っている。



<長崎県対馬市の現状>



<年間約2000~3000個以上が漂着する青いポリタンク >

## Rethink Designのポイント

130年を超える歴史と技術力、強みを活かし、強度を供えた再生プラスチック活用実現へ

- <Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>
- 長崎県対馬市へ漂着する海洋プラスチックごみ(オーシャンプラスチック)、中でも、年間約2000~3000個以上漂着するポリエチレン製の青いポリタンクに着目。
- <Design: 価値をデザインするまでの歩み>
- (株)リングスターがもともと提供してきた価値は、圧倒的な「強度」。
  - 再生プラスチックは、一度成形されて固まったものを粉碎。どうしても「空気」「ほこり」「ごみ」などの異物が混じる。またプラスチックにはPP(ポリプロピレン)やPE(ポリエチレン)、PC(ポリカーボネート)など、様々な種類があり、融点も異なる。そのため、混合した樹脂は成形ができず、強度が弱く安定性にも欠ける。
  - 創業から130年を超える歴史と技術力、強みを活かして、異材であるごみを混ぜても耐久性を担保できるよう試み、検証を重ねた結果、製品化実現に至る。

## プロジェクト関係者

(株)リングスター	製造・販売
リサイクル企業	分別支援、ペレット化
対馬市、対馬市民	回収・分別
生駒市SDGs課	普及啓発
対馬市SDGs課	普及啓発
尾崎えりこ氏	普及啓発
全国のアウトドア、釣具専門店	販売



# 循環型リサイクルハンガー



## プロジェクト概要

### 環境配慮型素材使用の循環型リサイクルハンガー

インナーウェアを展開する株式会社ワコール。同社ではこれまで、使用済ハンガーを回収し、他のプラスチック製品や固形燃料にリサイクルしてきた。

製品ラベルやハンガーなどについても環境配慮型素材への切り替えを検討する中で、回収したリサイクルハンガーを原料にして「循環型リサイクルハンガー」に再生する取り組みをスタート。「循環型リサイクルハンガー」は、リサイクル原料50%、バージン原料50%を使用したハンガーである。

「循環型リサイクルハンガー」はハンガーは6種類あり、主にチェーンストアで販売されるワコール商品で順次使用される。



<これまで使用していたプラスチックハンガー>



<循環型リサイクルハンガーのラインナップ>

## Rethink Designのポイント

自社のサプライチェーンに視点を置き、捨てられるものに着目し、資源循環に取り組む。

<Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>

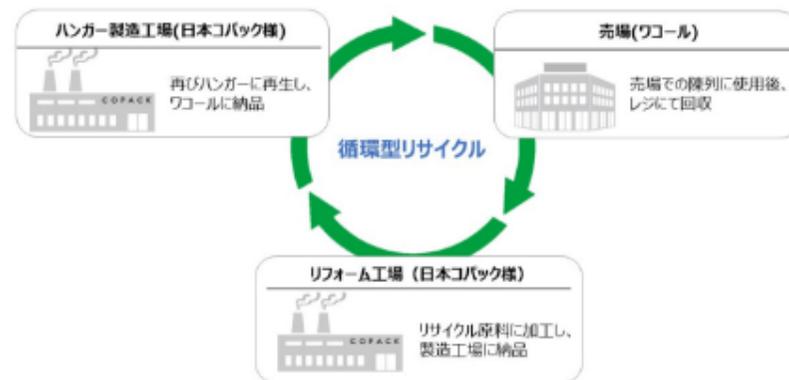
- 2000年頃からインナーウェアに使用しているハンガーをプランターや別の流通ハンガーに再利用してきたが、自社内のもので作りの中で循環させる仕組みができないかという議論が社内にあった。そこで、自社のサプライチェーンに視点を置き、販売商品の付帯物のうち、捨てられるものに注目することにした。

<Design: 価値をデザインするまでの歩み>

- 循環型リサイクルハンガーは、元々使用していたハンガーを粉砕したリサイクル材とバージン材を使用。リサイクル材のみでは強度が弱くなるため、試行を重ねた結果、バージン材も配合する形で製造している。リサイクル原料を活用することで、バージンのプラスチック原料の使用量を約半分に削減している。
- リサイクルをスムーズに進めるために、ハンガーに貼るサイズシールも、同じPP材のシールに変更。

## プロジェクト関係者

(株)ワコール	企画・全体管理
全国の量販店	循環型リサイクルハンガーの使用・回収協力
日本コパック(株)	回収・製造
(一社)日本ボディファッション協会	普及協力



CASE 12  
KURAMAE モデル

東京・蔵前発の「地域循環モデル」を創出・展開



プロジェクト概要

地域を結ぶ「KURAMAEモデル」で持続可能な循環を

「KURAMAE モデル」は、ものづくりの街・東京 蔵前発のアップサイクルプロジェクト。具体的なプロジェクトとして、回収したコーヒー資源、余った食材を活用した「森のタンブラー」や、「蔵前BLACK」、「蔵前WHITE」(連携先:アサヒユウアス)、回収したコーヒー資源を活用したカップや食器をつくる「生分解性容器『edish』」(連携先:丸紅)等がある。「KURAMAE モデル」は、運営事務局である(株)緑の木が中心となり、地域の福祉事業所の多様な仕事を創出しながら様々な団体・企業と連携し、少しずつ、東京 蔵前から「サーキュラー・エコノミー」を広げ、持続可能な循環を目指している。

- <Rethink:モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>
- 日々の生活やカフェ・焙煎店の業務の中で生じる捨てられるモノや古くなったモノに着目。

プロジェクト関係者

(株)緑の木	全体管理・コーディネート
アップサイクルメーカー	アップサイクルプロダクト開発
地域の福祉事業所	原材料(コーヒーかす等)の回収・アップサイクルプロダクト製造
蔵前地区カフェ・焙煎店	原材料(コーヒーかす等)の提供

CASE 13  
化粧品・トイレタリー容器の循環型リサイクルシステム



プロジェクト概要

これまで達成が難しかった化粧品・トイレタリー用品の循環を実現

化粧品・トイレタリー容器の循環型リサイクルシステムは、今まで捨てられていた「化粧品・トイレタリー容器」を回収し、新品のボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」の取組。プロジェクトの中心となって遂行する株式会社BEAUTYCLEでは、使い終わった容器を原料に戻し、新しい容器を作る樹脂に還元できる仕組み、印刷等の加飾した容器であっても再び樹脂に戻ることができる技術を有し、これまで実現が難しかった化粧品・トイレタリー用品での「ボトルtoボトル」を可能としている。

- 使用済みの容器のほか、製造過程で出たロスも無駄にすることなく回収し、還元している。成形工程は、株式会社BEAUTYCLE内の成型工場で再生させるため、トレーサビリティも可能である。
- <Rethink:モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>
- 循環する貴重な「資源」として、今まで捨てられていた「化粧品・トイレタリー容器」に着目。

プロジェクト関係者

(株)BEAUTYCLE	循環型リサイクルシステム全体管理・コーディネート
化粧品・トイレタリーメーカー/OEM等 (株)アートネイチャー、(株)I-neiほか	リサイクルボトルの活用、廃棄商品の提供、使用済みボトルの回収
(株)ツバキスタイル	(株)BEAUTYCLEへの出資、普及活動
(株)グラセル	(株)BEAUTYCLEへの出資、普及活動

## SminkArt (スミンクアート)

【SminkArt が実施しているコスメの有効活用スキーム】



## プロジェクト概要

廃棄されるコスメを様々なプロダクト・工業資材に再生

外装的に整えるだけでなく、それに伴い内面的な躍動感や自信をもたらす化粧品には、プロダクトそのものに対する消費者の強い思い入れがある。そのため、半数近くの化粧品ユーザーが廃棄する際の罪悪感を感じており、このような消費者心理自体を拗り上げる再生利用手段が求められる。また、薬機法で製造された化粧品はあらゆる工業における法律をクリアしており、その原材料としての有用性は高い。

そこで、家庭内で廃棄されてしまうコスメを楽しみながら他のモノへと転化できないかという、株式会社モーンガータの思いから生まれたプロジェクトが「SminkArt」。株式会社モーンガータでは、「使い切れず捨ててしまっていた色物コスメ」を絵具や雑貨等の色材へと転化する特殊な溶液「magic water」を特許技術として開発し、Art キット・化粧品絵具・水性ボールペンなどさまざまな自社プロダクトを展開。また、様々な企業との連携のもと、自社と他社の技術・資源・知見を融合し、化粧品を活用した工業資材を共同開発している。再生利用スキームのハブとなり、化粧品業界全体で取り組める仕組み作りを通して、日本の化粧品業界の新たな魅力創出を目指している。

<Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>

- 化粧品という枠組みから脱却し有用性のある原料として捉える視点、廃棄物に新規価値を付与し楽しみながら再生利用することがもたらす取り組み継続性。

## プロジェクト関係者

(株)モーンガータ	全体企画・調整、製造
化粧品メーカー(16社)	資源(廃棄されるコスメ)の提供
TOPPAN、サクラクレパス、 竹中工務店、コーセー、 花王、小田急百貨店他	再生された資源の活用、イベント開催

## Circularity Design Tool Pool



## プロジェクト概要

資源価値の終わりを始まりに変えるクラウドサービス

「Circularity Design Tool - Pool」は誰が・どこで・何を・どれだけ排出しているのかがマップで可視化され、簡単に管理することができる、レコテック株式会社が開発した廃棄物計量管理システム。

普段捨てられてしまう「ごみ」をデータ化することによって回収インフラを構築し、リサイクル材料を活用したい製造業者と排出事業者を繋ぎ合わせてトレーサビリティの取れる循環型サプライチェーンをデザインするための仕組みを構築し、資源価値の終わりを始まりに変える。

<Rethink: モノ自身やその関わり方に対する価値の捉えなおし>

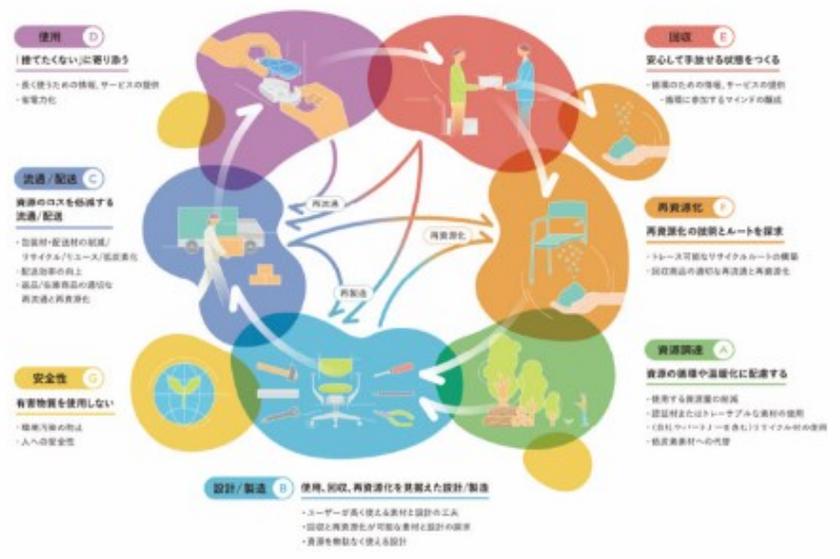
- メーカーによるPCR材の活用を困難にしている4つの課題:①安定的な品質の確保、②経済合理性のあるコストでの調達、③安定供給できる仕組みづくり、④トレーサビリティの確保に着目して、データプラットフォームを構築

## プロジェクト関係者

<※不要となったプラスチックの洋服カバー回収・再生するプロジェクトの例>

レコテック(株)	システム開発・提供
商業施設等 (百貨店など10社:2024年6月時点)	システム導入・活用
浪速運送(株)	プラスチックの洋服カバー回収
豊田通商(株)	回収した資源(履歴情報含む)の活用

# SUTENAI CIRCLE コクヨ株式会社



## プロジェクト概要

捨てない事が当たり前の社会実現に向けて

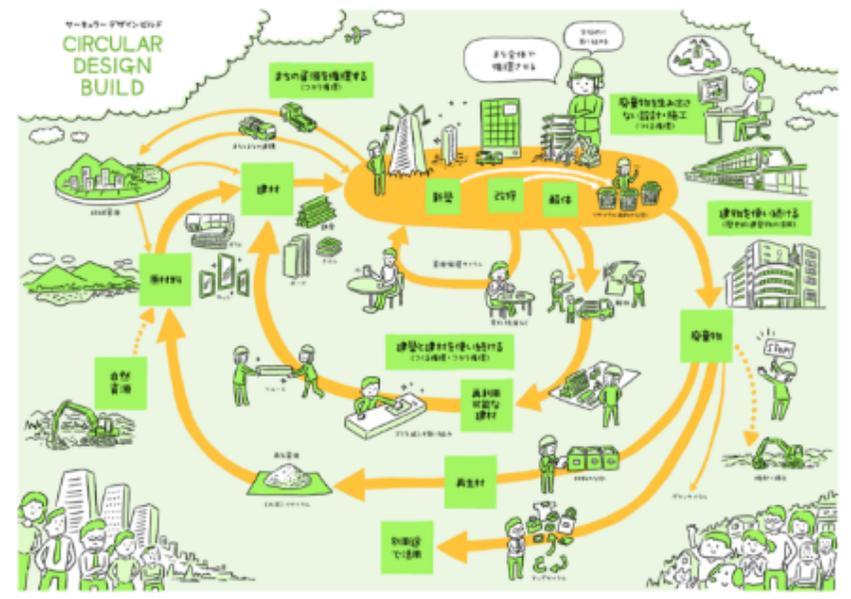
コクヨグループは循環型社会への貢献をマテリアリティのひとつに掲げ「多くのパートナー、顧客と共に循環を生み出し、捨てない社会をリードする」というアウトカム実現に向け活動を展開している。資源を循環させるためには、作り手、使い手、運び手、そして再生の担い手が領域を超えて協力すること、異なる立場に立ち、本当にこれで循環するかどうかを考えることが必要という考えのもと、検討してきたコンセプトが「SUTENAI CIRCLE」である。

「SUTENAI CIRCLE」はコクヨの循環指針であるとともに、循環を実現していくための合言葉であり、誰もが参加し活動できるプラットフォームでもある。同指針のもと、資源循環の為の工夫(=SUTENAI工夫)を取り入れた商品の開発や情報・サービスの提供、使い終わったノートを子ども達と共に回収再生する、参加型学習プログラム「つなげる一ぱ!」等のプロジェクトに取り組んでいる。

## 連携機関

コンセプト作成協力 京都工芸繊維大学水野大二郎研究室、(株)RE:PUBLIC

# サーキュラーデザインビルド® 株式会社竹中工務店



## プロジェクト概要

「つくる」・「つかう」・「つなぐ」をキーワードに、資源循環全体で廃棄物を削減する取組を推進

竹中工務店では、自社の環境戦略の1つ、サーキュラーエコノミーを実現するために「サーキュラーデザインビルド®」というコンセプトを紡ぎ出した。同コンセプトのもと、従来のスクラップ&ビルドから「つくる」・「つかう」・「つなぐ」をキーワードにリユース・リサイクル・アップサイクルなど、廃棄物を削減する取組の推進を目指している。2023年にスタートした「建築における鉄のリサイクル」はその一例である。

竹中工務店が解体する建築物から排出される鉄スクラップ回収後、電炉鉄鋼メーカーのニーズに見合った製鋼原料に加工し、加工された原料を製鋼会社が環境負荷の低い電炉で溶解し製品化、同製品を竹中工務店が手掛けるプロジェクトにて活用・トレーサビリティを確立する体制を構築。これまで実現が難しかった業界を跨ぐ連携体制の構築が実現した。今後もこうした連携体制の構築を進め、資源循環全体での課題共有や解決方法の議論を深め、取り組みのスパイラルアップや活動の輪の拡大を目指す。

## 連携機関

「建築における鉄のリサイクル」 (株)竹中工務店(建築物の設計・施工)  
(株)産本金属(排出される鉄スクラップの回収・原料加工)  
岸和田製鋼(株)・共英製鋼(株)(溶解・製鋼)  
東京製鐵(株)(溶解・製鉄)

## 04 「Rethink Design フォーラム ～サーキュラーエコノミーとどう向き合うか～」

本フォーラムでは、Rethink Design の考え方や、実践事例を知ってもらうことで、参加者の方々がサーキュラーエコノミーを体系的に理解するとともに、モノやモノとの関わり方の価値を捉えなおし、ビジネスに取り入れるためのきっかけにつながることを目指した。

フォーラムでは、イベントの話題提供として、近畿経済産業局 環境・資源循環経済課より、サーキュラーエコノミーを巡る国の動きと本プロジェクトについて紹介。

その後、昨年度事業にご協力いただいた皆様を代表して、アイフォースリー合同会社 長岡氏、甲子化学工業株式会社 南原氏、日榮新化株式会社 馬淵氏にご登壇いただき、それぞれの取組をご紹介いただいた。さらに、関西にルーツのある大手メーカーである株式会社アシックス 上福元氏、パナソニック株式会社 島村氏にも取組をご紹介いただいた。

事例紹介の後、株式会社新東通信 山下氏とサークルデザイン株式会社 那須氏を交えて、Rethink をキーワードに、ビジネス目線でサーキュラーエコノミーをどのように向き合っていくかをテーマに、トークセッション形式で議論を展開した。



## TALK SESSION Rethink Design フォーラム ～サーキュラーエコノミーとどう向き合うか～



	Rethink	Design
アイフォースリー	廃棄されている自動車 → 車の健康を守る	アイフォースリー 廃棄される車 (物性に起因) の再利用 料を削減し車内環境を守るサブクラス 得意の会社の子会社が買回車の利を減 う (対策から予防に貢献)
甲子化学工業	悪者にされがちなプラスチック → プラスチックと共存する社会を目指す	甲子化学工業 廃棄されるプラスチックの資源化を促進し、 プラスチックの量を削減した素材 強度をもちたすバイオプラスチックを 活かした製品 質を立脚と新 資源物産を 同時にケッコよく解決する
日榮新化	廃棄されていたラベル台紙 → 地球にとってやさしいラベル台紙 をつくる	日榮新化 紙着フィルムの本紙の リサイクルゲームの確立 自然あつての紙着だからこそ、 価値を大切に
アシックス	人にとってベストな靴をつくる → 人と地球にとってベストな靴をつくる	アシックス リサイクルは当たり前に、 高いパフォーマンスを確保 シューズが生まれ変わり履かの一足に なるためのライフサイクル
パナソニック	使って廃棄する製品 → 顧客自身がメンテしやすい仕様	パナソニック 使い続けられる製品群の構築 製品と持続可能な関わりを持つ

(トークセッションの様子)



(サーキュラーエコノミー・Rethink Designの取組・サンプル紹介)

## 05 「Rethink Design Meetup ～関西からサーキュラーエコノミーに挑む同志～」

本Meetupは、サーキュラーエコノミーを先駆的に挑戦・実践するRethinker同志が、互いの取組に触れながら、共通の課題・テーマに対してともに考え、新たなアイデアを生み出し、次なるアクションを担う仲間探しの場として開催。

当日のMeetupでは、上記目的を具現するためのアクションとして、「海の再生」、「サステナブル衣料」、「サステナブルな暮らし(日用品)」、「サステナブルな住まい(居住空間)」のチーム(分野)に分かれて、「Rethinkが当たり前になる持続的な社会」をテーマに、ともにアイデアを出し合うワークショップを開催。メンバーを変えて2回のワークショップを開催し、活発な意見交換が行われ、新しいアイデアが多く生まれた。

ワークショップ後は、参加者同士の交流・名刺交換会を開催。サーキュラーエコノミー、Rethink Designの取組に関連する製品・サンプルを紹介しながら、参加者同士が互いの取組や考えについて理解を深める場となった。

本Meetupで生まれたアイデア実現に向け、参加者同士でコミュニケーションを図る等、具体的なアクションもスタートしつつある。



# Rethink Design Meetup

## 参加者プロフィール



**武廣 雄暉**  
TAKEHIRO Yoshiki



(株)アーバンリサーチ  
SDR(サステナビリティ推進)

compost、古着パトン

衣料品のアップサイクルの実現、環境負荷の軽減に取り組んでおります。

**奥津 翼**  
OKUTSU Tsubasa



(株)アシックス  
サーキュラーエコノミー推進部

廃棄予定のシューズを原料に用いたスニーカーや廃材活(NEOCURVE)

捨ててしまうものから新しいものを生み出す可能性を探りたい。

**井下 陽平**  
INOSHITA Yohei



(株)アシックス  
サステナブルプロダクト推進部

サステナビリティに関する取り組みの実行計画を立案(CO2排出量削減など)

多角的な議論を通じて、CO2排出量削減や廃棄物の再利用の可能性を見出したい

**梅田 宏行**  
UMETA Hiroyuki



(株) カナエ  
取締役 開発本部長

廃PTP・残資材のマテリアルリサイクル

包装材料の販売企業として、お客様の工場から排出される産プラをマテリアルリサイクルして廃棄物削減に取り組んでいます。

**濱口 慎治**  
HAMAGUCHI Shinji



サラヤ(株) 商品開発本部  
サステナブルデザイン開発センター

Blue Ocean Initiative 海洋プラスチック回収手段の確立と再資源化の加速<分科会>

共創によるサーキュラーエコノミーの実現。

**村井 孝嗣**  
MURAI Takashi



積水ハウス(株)  
ESG経営推進本部  
環境推進部 資源循環チームリーダー

循環する家 House to House PJ

業界と共に、住宅の資源循環の価値観を変えていこう!

**岩田 有史**  
IWATA Arichika



(株)イワタ 代表取締役

サーキュラーデザインの提唱

製品の寿命を延ばしたり、廃棄を減らして循環したりするもの、ものづくりの大切な役割だと考えています。

**武野 璃子**  
TAKENO Liko



エイチ・ツー・オーリテイリング(株)  
サステナビリティ推進部 CSR推進担当

oHOHo CYCLE PROJECT

各社・団体の強みを活かしながら一社では難しい課題にチャレンジ

**白羽 玲子**  
SHIRAHARA Reiko



(株)緑の木 代表取締役

KURAMAE モデル

福祉事業所と連携し、地域資源の循環とアップサイクルを通して、街のゆるいつながりを創りたい

**福井 彰一**  
FUKUI Shoichi



(株) 竹中工務店 経営企画室  
サステナビリティ推進部

「サーキュラーデザインビルド®」

サーキュラーエコノミーの社会実装には関係性の質の向上が欠かせません!

**許斐 健太郎**  
KONOMI Kentaro



(株)竹中工務店  
大阪本店設計部構造部門 主任

大阪道富針工業神戸営業所改修

「古いからこそ、カッコいい」をつくりたい。

**村上 友規**  
MURAKAMI Yuki



(株)竹中工務店  
大阪本店設計部構造部門 主任

大阪道富針工業神戸営業所改修

もったいないを合言葉に、良い仕組み作りで資源をまわそう。

**坂倉 孝雄**  
SAKAKURA Takao



大手前大学 准教授

・環境省食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業  
・地域をつなげるメディア goomee!

「非競争&共創」分野を大切にすることで楽しくて強くなる地域経済。

**門倉 功一郎**  
KADOKURA Koichiro



門倉貿易(株) 代表取締役社長

繊維リサイクル(リフモの開発)

大量生産・大量廃棄から新たな繊維リサイクルの形を作ります。

**黒木 洋平**  
KUROKI Yohei



(株)バンテック 執行役員  
サーキュラーエコノミー推進部 部長

「で、おわらせないPROJECT」、Filmate等

「環プラ®」を共創(Co-Creation)しましょう!

**大野 賢**  
ONO Satoshi



(株)バンテック  
サーキュラーエコノミー推進部 課長

「で、おわらせないPROJECT」、Filmate等

「環プラ®」のデザインを通じて、社会経済システムをアップデートする。

# Rethink Design Meetup

## 参加者プロフィール



**繁田 知延**  
SHIGETA Tomonobu



PHI社 CEO  
ユニバー・ジャパン・カスタマー  
マーケティング社  
「環境教育」×「地域資源循環」  
UMILE(ユーマイル)  
持続可能な社会の担い手を育成

**大内 良洋**  
OHUCHI Yoshihiro



モリトアパレル社  
マテリアルデザイン事業部 部長 兼  
サステナブルデザイン室 室長  
Rideeco一世界へ発信、モリトの  
サステナブルな挑戦—  
廃棄物を資源化することで、物づく  
りを支え、循環社会に貢献する

**船崎 康洋**  
FUNASAKI Yasuhiro



モリトアパレル社  
サステナブルデザイン室 室長代理  
Rideeco一世界へ発信、モリトの  
サステナブルな挑戦—  
廃棄物を資源化することで、物づく  
りを支え、循環社会に貢献する

**鍋谷 安弘**  
NABETANI Yasuhiro



合同会社Watashiba 代表  
廃プラスチックからの再資源化  
よりよい社会に対する正しいアクションを  
実行するため、廃プラスチックからのプロ  
ダクト企画・開発に取り組んでいます。

**山下 史哲**  
YAMASHITA Fumiaki



(株)新東通信 CIRCULAR  
DESIGN STUDIO, スタジオ長  
サーキュラーエコノミーによる街づくり  
同志×多様性×場で、皆さんとサー  
キュラーシティを実現したい

**那須 清和**  
NASU Kiyokazu



サークルデザイン(株)  
代表取締役  
循環を一緒につくる。循環を測る。  
サーキュラーエコノミーを手段とし  
て、「人」と「自然」が共に繁栄する  
社会へ

**吉川 利幸**  
YOSHIKAWA Toshiyuki



(株)吉川園工業所 代表取締役  
長く使えるものづくりを目指しエコ  
素材を導入、素材開発企業として  
も注目されるメーカーに

**嶋田 勤**  
SHIMADA Tsutomu



(株)吉川園工業所  
環境配慮型素材開発事業課 課長  
セルロース複合樹脂で「脱炭素社  
会」を目指し、又、環境配慮型素材  
の活用・開発でCO2排出量の削減  
に貢献致します。

**唐金 祐太**  
KARAKANE Yuta



(株)リングスター  
取締役マーケティング室長  
正しく選ぶ・正しく捨てる・正しく向  
き合う世界の実現  
100年後の子供達が笑顔で過ごせ  
るよう全力で頑張ります。

**安江 竜大**  
YASUE Tatsuhito



近畿経済産業局  
環境・資源循環経済課 総括係長  
Rethink Design Project  
視点を変えれば価値がめぐる、  
サーキュラーを自分事に。

**篠田 玲羅**  
SHINODA Reira



(株)リングスター  
マーケティング室 広報リーダー  
対馬オーシャンプラスチックシリーズ  
正しく選ぶ・正しく捨てる・正しく向  
き合う世界の実現。楽しく働いてい  
る人を増やしたいです。

**濱澤 忠史**  
YUMESHIMA Taro



(株)ワコール 材料調達部  
開発購買課  
SDGsPJ  
製造工程で発生する残材を活用  
した新規ビジネスを皆様との協業  
で創出していきたく思います。

**【Meetup参加者の声(アンケート結果から抜粋)】**

Meetup参加者のアンケート回答結果から、学びになった内容として、「自分たちの取り組みについて、他の業界からの見え方の違い、そして期待を知ることができた」、「それぞれの立場で、サーキュラーエコノミーをどのように捉えているか知ることができたことが刺激になった」が挙げられた。

今後の展開に向けて、「事例発表を通じての意見交換など、学びの場を設け、そこから事業化の可能性を議論する場を期待する」、「規模を問わず、サーキュラーエコノミーの取組や企業の発掘・データベース化・広報・同士をつなぐ役割を期待する」、「循環価値を伝えることは非常に大切だが、消費者との意識・知識のギャップがどのくらいあるかを認識しながら進める必要がある」といった意見が寄せられた。

## 掲載事例に関する情報一覧

プロジェクト名	問い合わせ先 企業・部署名	企業/プロジェクト URL
CASE 1: 鹿楽衣料のアップサイクル 「compost(コンポスト)」	株式会社アーバンリサーチ サステナビリティ推進課	<a href="https://www.urban-research.co.jp/special/compost/">https://www.urban-research.co.jp/special/compost/</a>
CASE 2: シューズのサーキュラーデザイン 「NIMBUS MIRAI」	株式会社アシックス パフォーマンススランニング フットウェア統括部	<a href="https://www.asics.com/jp/ja-jp/mk/mirai">https://www.asics.com/jp/ja-jp/mk/mirai</a>
CASE 3: 持続可能な寝具生産と消費の形態 「RENMEN®」	株式会社イワタ マーケティング室	<a href="https://iwata-online.com/collections/renmen">https://iwata-online.com/collections/renmen</a>
CASE 4: 衣類の資源循環の取り組み 「oHOHo CYCLE PROJECT」	エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 経営企画室 サステナビリティ推進部	<a href="https://ohoho-cycle.jp/">https://ohoho-cycle.jp/</a>
CASE 5: asunowa(あすのわ) 再生ストレッチ	オルディ株式会社 商品管理部	<a href="https://ordiy.com/asunowa/">https://ordiy.com/asunowa/</a>
CASE 6: 鹿楽繊維のアップサイクル 「Colour Recycle System」	株式会社colourloop	<a href="https://colourloop-jp.com/">https://colourloop-jp.com/</a>
CASE 7: サーキュラーエコノミー実現に 向けた「ラベルtoラベル」	グンゼ株式会社 プラスチックカンパニー営業統括部	<a href="https://www.gunze.co.jp/plastic/">https://www.gunze.co.jp/plastic/</a>
CASE 8: 循環型社会の共創の在り方を問う 「サーキュラーコミュニティカード ゲーム」	株式会社ごみの学校	<a href="https://circularcommunity.studio.site/">https://circularcommunity.studio.site/</a>
CASE 9: 裁断くずのアップサイクル 「UpcycleLino™」	株式会社ネクスト 経営企画室	<a href="https://upcyclelino.com/">https://upcyclelino.com/</a>

プロジェクト名	問い合わせ先 企業・部署名	企業/プロジェクト URL
CASE 10: プラスチックとの共存を問う「対馬 オーシャンプラスチックシリーズ」	株式会社リングスター マーケティング室	<a href="http://www.ringstar.co.jp/">http://www.ringstar.co.jp/</a>
CASE 11: 循環型リサイクルハンガー	株式会社ワコール 技術生産本部	<a href="https://www.wacoalholdings.jp/">https://www.wacoalholdings.jp/</a>
CASE 12: KURAMAE モデル	株式会社緑の木 KURAMAEモデル運営事務局	<a href="https://kuramae-model.org/">https://kuramae-model.org/</a>
CASE 13: 化粧品・トイレタリー容器の循環型 リサイクルシステム	株式会社BEAUTYCLE	<a href="https://tsubakistyle.co.jp/beautycle">https://tsubakistyle.co.jp/beautycle</a>
CASE 14: SminkArt(スミンクアート)	株式会社モーンガータ 本社(代表取締役)	<a href="https://man-gata.com/">https://man-gata.com/</a>
CASE 15: Circularity Design Tool Pool	レコテック株式会社 営業開発部	<a href="https://recotech.co.jp/pool/discharger/">https://recotech.co.jp/pool/discharger/</a>
CASE16: SUTENAI CIRCLE	コクヨ株式会社 CSV本部 サステナビリティ推進室	<a href="https://www.kokuyo.co.jp/sustainability/sutenaicircle/">https://www.kokuyo.co.jp/sustainability/sutenaicircle/</a>
CASE17: サーキュラーデザインビルド®	株式会社竹中工務店 経営企画室 サステナビリティ推進部	<a href="https://www.takenaka.co.jp/enviro/environment/resource-circulation/">https://www.takenaka.co.jp/enviro/environment/resource-circulation/</a>